

【ムスリムの生徒も一緒に】

(中学校3年生 4月：在日2年)

私の勤務していた中学校には、ムスリム*の生徒が在籍しています。宗教上、いろいろな配慮が必要なため、保護者やムスリムのコミュニティーと相談をしながら進めています。

その中で、生徒が楽しみにしている宿泊行事は、普段の学校生活とは異なる場面が数多くあるため、どのような配慮が必要か、事前に保護者と連絡を取り、その情報を修学旅行に参加する教員と添乗員で共有し、対応を考えました。

例えば、普段は家から弁当を持ってきている生徒が多いため、旅行中の食事について、ホテルからメニューの細かなリストを事前に取り寄せ、保護者に確認をしてもらったり、準備する非常食はムスリムの生徒たちが食べても戒律に触れないものにしたりしました。

また、分散活動は生徒たちで昼食場所を決め、目的地まで行くことにしていたため、事前にムスリムの文化や習慣について知る機会をつくりました。それにより、生徒たちは昼食場所を決める際に、ムスリムも食べられる食事が提供されているか調べたり、活動時間の中にお祈りする時間を確保したりするなど、相手の文化や習慣を尊重し、受け入れながら計画を考えていました。



※ムスリム…イスラム教を信仰する人。

◎小中学校における、外国籍等の児童生徒を迎え入れる際の支援指導の工夫については、愛知県義務教育問題研究協議会で、事例集「外国にルーツをもつ児童生徒 受入れ・共生のためのはじめの一步」にまとめています。参考にご覧ください。



*事例集「外国にルーツをもつ児童生徒 受入れ・共生のためのはじめの一步」